長崎だより

長崎の情報をお届けします

FFG調査月報の姉妹誌「ながさき経済」を発刊している、ふくおかフィナンシャルグループの長崎経済研究所。長崎の旬な情報を提供するコーナー「長崎だより」の今月号は、篠崎 竜大様から「壱岐島でたちまちやっています!」と題し、寄稿していただきました。

長崎経済研究所による「ながさき経済web」随時更新中!

当研究所が発信する最新の情報をメールでお届けします。

メールマガジンの登録はこちら▶

ながさき経済web画面

お問い合わせ

株式会社長崎経済研究所
長崎市銅座町1番11号
十八親和銀行本店内
TEL095-828-8859

長崎経済研究所とは

長崎県の経済・社会・産業動向などに関する調査研究及び企業経営や県民の生活のお役に立つ情報をご提供するとともに、各種経済・文化団体の事務局活動等を通じて、地域社会に貢献することを目指しております。

壱岐島でたちまちやっています！

寄稿　たちまち　篠﨑 竜大

たちまちメンバー。左から大川 漁志氏・香菜氏、篠﨑 竜大氏・千恵美氏、平山 みずき氏・健人氏

人と人の交差点のような場をつくる

芦辺浦をふらっと人がたち寄るまちに、人と人の交差点のような場にしたい。色々な人が混ざり合い、外からの人を迎えるまちにしたい。そんな想いで、２０１８年から「たちまち」は動き始めました。

２０１６年このまちに「みなとやゲストハウス」ができて、国内外からいろんな人が集うようになりました。しかし宿はできても、食べるところも立ち寄るところもない。さらにはゲストから移住相談も。そんな時に、大川夫妻から「このまちにもっと人が寄るように食堂をつくりたい」と設計の相談がありました。それならばいっそ、まち全体のことを考え、子どもも大人も旅人も集まることができる拠点をつくり、そこから芦辺浦の情報発信と住まいの準備ができる活動をしてみようじゃないかと、チームを結成しました。それが「たちまち」です。壱岐では「とりあえず」という意味をもつ「たちまち」は、メンバーでできることを少しずつ、まずはやってみようという活動の理念そのものです。

Profile

TACHIMACHI_IEMACHI.IKI

たちまちメンバー

LIGHTHOUSE設計
篠﨑（しのざき） 竜大（たつひろ）・千恵美（ちえみ）

みなとやゲストハウス
大川（おおかわ） 漁志（りょうじ）・香菜（かな）

PIZZERIA Potto
平山（ひらやま） 健人（けんと）・みずき

長崎県の壱岐島、その東の玄関口、芦辺港近くの小さなまち芦辺浦。
このまちで生まれ育った人間と外からやってきた人間が、日々を楽しくするために活動中。
HP www.tachimachi.net

混ざり合う場としての拠点づくり

わたしたちが最初に行った活動は、子どもたちも安心して立ち寄れる拠点づくりでした。そこは、たちまちの活動拠点であり、食堂であり、まちの子どもたちが寄るフリースペースでもあります。このフリースペースは近所の人たちにも協力してもらい、2019年から月曜日と金曜日の15時半～17時まで無料開放しています。芦辺浦の子どもたちが下校後にやってきて、自分たちで学習をしたり、絵を描いたり、本を読んだりと思い思いに過ごして帰っていきます。特にルールはありません。プログラムもありません。学校でも学童でもない、まちの広場のようなもうひとつの居場所。併設された食堂にやってきた大人も寄って話をしたり、混ざって遊んだりすることも。子どもたちの姿がまちの人たちにとっても、ほっとできる小さな幸せだと感じています。子どもたちが明るい未来を想像できるように、そしてこのまちで過ごした日を大人になってふと思い出す瞬間があることを想いながら一緒に過ごしています。

フリースペース イエマチの日常

改修したたちまち イエマチ

空き家相談室イエマチ

この活動を行う中で、単純なことですがまちには人が必要であることを改めて感じています。ここに住んでいる人に、島外の多様な価値観を持っている人が混ざり合うことで、より大きな力になっていくこと（わたしたちの生活も楽しくなっていくことも！）を知りました。この場所で生まれ育ち、今は島外にいる人も、旅の途中でこの島にふらっと寄った人も信頼できる人がここにいることが、この島で生きていくきっかけになることを実感しています。一旦住んでみて人と混ざり合うことが、この島に住む一歩になる。そのためには、住まいの準備が必要です。

2019年2月に壱岐市とたちまちは「芦辺浦地区における移住促進ならびに空き家活用推進に関する連携協定」を締結し、2019年7月には空き家相談室「イエマチ」がたちまちの拠点に開設されました。空き家をどうしたらいいか、誰に相談したらいいのかわからない。そんな時にざっくばらんに話ができる場所をまちの中においてみたらどうだろう、ということで地域おこし協力隊の方が土曜日にたちまちの拠点で業務を行っています。少しずつ壱岐の人にも認知されるようになり、空き家バンクへの登録や空き家の利活用が進んでいます。

そして2020年には芦辺浦の空き家三軒を改修して賃貸物件にするプロジェクトが始まりました。この空き家でも地域の人や子どもたち、新たな移住者も交えて一緒に片付けをしました。一緒に作業をすることで、この家に愛着がわいてくる。その気持ちは、まちを好きになることにつながるのではないかと思っています。今この三軒の空き家には三組の新しい家族が生活し、このまちの

空き家片付けワークショップ

壱岐市とたちまちの協定式

改修された空き家の土間で

新しい日常の風景をつくっています。

自発的な活動を

活動を始めて4年、拠点をつくるための空き家内部の解体ワークショップ「こわして！ぬって！」に始まり、100人を超える方に集まって頂いた「よって！かたって！」では、まちに住む先輩から歴史や物語、大切にしてきたことの話を寄って語る場をつくりました。この時の時間と経験が、これまでのたちまちとしての活動の精神的な支えになっています。他にも写真展や本の展覧会、高校生との空き家片付け、クリスマス会や漂着ゴミでの楽器づくりなど、子どもたちや地域の人を巻き込みながら、様々なワークショップを行ってきました。

大切なことは行政や大きな資本に頼るのではなく、手づくりで小さなプロジェクトを積みあげ、その集積として経済優先ではない、「自分たちのまちは自分たちでつくる」と

いう意識が表れてくることです。一つ一つは小さくても、島の色々なところで、島の外部からではなく、内部から自発的に活動が起こってくることで、ゆっくりと島に根を張って大きな変化をもたらすことも可能になるのではないでしょうか。

こどもの島旅プロジェクト

この4年間、子どもたちのフリースペースの開放を継続してきて、また自分たち自身の子育てを通して、子どもの行動が色々なルールによって制限されていることに違和感を抱かずにはいられません。今の社会のリスク回避への偏重は自然との距離をとることと同義のような気がします。人工物に囲まれた一見低リスクな環境が推進されています。自然と生活の分断は今や都市と地方に関わらず、また子どもにも大人にも言えることではないかと思います。現代の画一的でとてもフラットな教育がこの島にも当たり前のようにあてはめられています。もっとその場所に合った多様な教育のかたちがあっても良いのではないかと考えています。

そして今動き始めたことが、日常に自然とのつながりをつくる「こどもの島旅プロジェクト」です。わたしたちは一人の親としても子どもたちに多様な人々や風景、経験に出会ってほしいと思っています。この計画は特別な体験や教育を行う必要はなく、地域のおじいちゃん、おばあちゃんが見守る中、地元の子どもたちがまちや海で普通に遊ぶようなことと同じことでよいと考えています。このまちは、外の人が少しずつ移り住むことで、人を迎える下地ができてきていると感じます。そんなまちと、壱岐の豊かな自然とのつながりを感じることができる「こどもの島旅」。

島の子にとっても、島外の子にとっても、混ざり合うことで多様な価値観に出会うことになるでしょう。遠く離れた島に(島の子から見れば都市に)友達がいるという感覚ができる、そうしてその旅はきっと記憶に残るものとなり、いつかまた

こわして！ぬって！ワークショップ

空き家解体ワークショップ　大人も子どもも夢中に

みんなで漆喰塗り

会いたいという新たな旅の動機になります。

今年に入り、芦辺浦に新しいワーケーション施設もオープンしました。今まで単身者のフリーランサーのものであったワーケーションから、このプロジェクトによって家族を巻き込む新たなワーケーションへと進化がはかれると考えています。また、3年後には子どもを主体とし、継続した預かりができる「島のようちえん」の運営を目指しています。

活動のきっかけは、まちごと価値が上がること。今その価値とは何かと考えた時に思い浮かぶものは「日常」という言葉です。忙しい(と思っている)現代の時間の中でどうやって豊かに感じる日常をおくれるか。自然のリズムを、隣人の気配を感じながら生活できる何気ない日常が大きな価値ではないでしょうか。

わたしたちは決して壱岐のために社会を変えよう、とは思っていません。生活を楽しくするため、よりよい時間をおくれるために動いています。壱岐全体だと見えないこと、考えられないことも自分の隣3軒のことなら見えてくる、考えることが出来るのではないか、そこで発生する小さな物語が、新しい動きを、ひいてはこれからの社会をつくっていくのではと思います。

様々な人が混ざり合うことは、摩擦や衝突もあります。でも、だからこそ多様なコミュニティが形成される、そして人と人のゆるやかなつながりができてくると思います。そうして外の人間を迎えるまちへとなっていくこと。用もないのに顔を出したくなる場が自然に増えて、思いがけず面白いことがおきるまちへ。「より速く、より遠くへ、より合理的に」ではなく「ゆっくりと、隣3軒を、寄り道を楽しみながら」この活動を継続していきたいと思います。

たちまちね。

こどもの島旅「親子で無人島へピクニック」

こどもの島旅「近所の清石浜へ散歩」